

2015 年度 学校関係者評価
報告書

学校法人滋慶学園
東京医薬専門学校

作成日：平成 27 年 6 月 18 日

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校
第 1 回学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：中村 裕子

1. 開催日時 平成 27 年 6 月 18 日（木） 14:00～16:30
2. 開催場所 東京医薬専門学校会議室
3. 参加者 学校関係者評価委員
多田 英人 卒業生代表（医療法人社団 同愛会病院 課長）
小野 覚 保護者代表（医療事務科 保護者）
彦田 英治 近隣関係者（葛西 仲町町会 副会長）
森 章 高校関係者（拓殖大学紅陵高等学校 学校長）
古川 哲也 業界代表（医療法人柏葉会 柏戸病院 課長）
篠原 陽子 業界代表（日本チェーンドラッグストア協会
ヘルス・アンド・ビューティーケア人材センター 事務局長）
神谷 文夫 業界代表（株式会社コスメティックアイダ
代表取締役社長）
五十嵐 樹 業界代表（社会福祉法人あらぐさ会 社会福祉法人職員）

学校側参加者

結城 建二	学校法人滋慶学園	葛西地区エリア長
須田 英明	東京医薬専門学校	学校長
一宮 頼子	同	副学校長
中嶋 すぎ子	同	事務局長
西田 茂男	同	教務部長

<自己点検・自己評価委員より参加>

渥美 康晴	東京医薬専門学校	キャリアセンター長
阿部 憲一郎	同	広報センター長
嶋田 茂之	同	コンプライアンスセンター長
中村 裕子	同	学生サービスセンター長

4. 議事

(1) 学校長就任の挨拶

平成 27 年 2 月就任 前学校長逝去による

(2) 各委員の紹介

前年度より変更となった委員

- ・学生卒業により、保護者代表に皆川玲子様が就任
- ・地域連携活動のご協力を頂き、近隣関係者代表に地元仲町町会副会長の彦田英治様が就任

(3) 学校関係者評価委員会の目的確認

平成 26 年度の報告に対し、ご意見・評価をいただくことで教育活動の質の向上、学校運営の改善・強化推進の機会とする。

(4) 平成 26 年度自己点検・自己評価の内容と平成 27 年度重点目標の説明

(主な連携教育内容の映像を確認、校舎・実習室見学を交えて説明)

○教育理念・目的・育成人材像

理念に基づいた人材育成は連携であると考えている。入学時から多職種を理解し、連携を意識させる取り組みをしている。協働を学ぶことにより専門職としての自分の役割を理解していく。また、有志によるチーム医療ゼミの活動を行い学習成果の発表を行っている。

<意見>

理念達成の為の目標にある就職後一年以内の離職率 0 名の調査はどのように行っているのか。離職防止の取組みとは具体的にどんな内容か。

担任が電話による調査を行っている。離職している場合は、理由の確認と再就職のフォローを行っている。

在学中に離職防止のため、離職のリスクや労働に関する法律の説明等を内容にした内定者ガイダンスを行っているが、卒業後の対策は厳しい。離職理由は人間関係が最も多く、コミュニケーション力が重要と捉えている。

離職率調査を開始した 5 年前は 36 名だった離職者が、今年の調査では 12 名に減少している。

○学校運営

大きな特徴は、事業計画作成についてである。

トップダウンではなく、現場が作り出しボトムアップし意思決定の組織で最終決定をしていく。この意思決定システムは情報の流れをシステム化し

スムーズに進めていく役割を果たしている。また、目標数値もスタッフと情報共有をしたうえで決定している。スタッフの捉え方、考え方の統一は若干の課題ではある。

○教育活動

教育内容の質の向上で授業アンケートを実施している。教授法アップの研修として、授業アンケートの高い教員の公開授業も行っている。これらの取り組みはFDC(ファカルティ開発コーディネーター)が主導で取組んでいる。国家資格の合格率は1学科を除いて、全国平均を超えている。

<意見>

F D活動とは何か。

一人の教員では、学生を変えられない。組織立てて取り組むことで変容を促していく。様々な家庭環境や学習暦で、進学時の適応が厳しい学生がおり、ノートの書き方からサポートが必要な学生もいる。授業の進行にも工夫が必要になる為、教員の教授力が肝となる。このFD活動は多くの学校で取り入れており、その内容で大きく差が出てくる。

○教育成果

就職内定率は高いが、一番の課題はやはり辞めない教育である。卒業後の学生にも影響を与え続けられるような新しい教育を考えていく必要がある。資格合格率の向上についても、補習や対策授業を多く取り入れ、対策を続けている。

<意見>

就職受け入れする側として、本人の目的がはっきりしていないケースがある。本人の思っていたことと、実際の現場のギャップがあるようだ。例えば医療秘書科の場合、患者への対応は看護師がやっており、事務的なことが中心となる。授業の中で、その部分をしっかり伝えておくことも必要なのではないか。

本人が何を学んだらいいのか、何をすればいいのかわかっていない。

面接の中で知らないことは習っていないと人のせいにするのが多く見受けられる。

○学生支援

学生ひとり一人の、学習・就職・生活の状況に合わせたサポートを継続的に行っている。学園のスケールメリットを活かし、様々なサポート部署と連携することで退学率の低下に繋げている。また、保護者会や保護者への個別連絡も行い学校と保護者で学生を支える体制を取っている。

<意見>

退学を考えていた学生はどんなフォローで思いとどまったのか。

精神面の場合、休学をして一旦落ち着いてから復学支援をしていく。状況に合わせた復学支援プログラムを作成している。このプログラムで半数ぐらいの学生が退学を思いとどまっている。

<意見>

入学したばかりなので保護者との連携はまだピンときていない。

保護者の立場として、どんな授業をやっているのか、ついていけているのか、

馴染めているのか気になる。だんだん親とは話さない年齢になってきており

同居していても会話が少ないが、一人暮らしをさせている親御さんは、更に様

子が分からず心配しているのではないかと感じる。

○社会貢献

教育の柱としている連携教育には地域活動のボランティアや授業の一環としての連携プログラムがあり地域貢献の位置付けとなっている。学生の成長を期待したキャリア教育プログラムを各学科で作成をし、地域の協力を得て取組んでいる。

<意見>

地域に高齢者が多く、大きな震災時に救助支援をして欲しい。学生と地域で協働

し何か活動を起こしたい。年に1回程度、町会と学校とジョイントした活動を計

画していきたい。

(5) 平成27年度の取り組み

業界×地域×学校 協働の学び

平成26年度と基本方針は変わらないが、よりいっそう連携教育を強化し、変革の時代に求められる自律協働できる力を養うことを教育の軸とする。

(6) 委員からの評価

※学校関係者評価委員会 評価結果参照

以 上